

洪作遺跡
発掘調査報告書

1995

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

し ぶ さ く
渋 作 遺 跡
発掘調査報告書

平成7年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



調査区全景（南方上空から）



調査区全景（空中写真）

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、渋作遺跡の調査結果をまとめたものです。

渋作遺跡は山形県の南部、北緯38度線が町の中心部を通る高畠町にあります。高畠町は「まほろばの里」といわれるように遺跡や史跡が点在し、特に国指定史跡日向洞窟や押出遺跡などがよく知られています。

調査では、高畠町役場の南約300mにひろがる水田から、掘立柱建物跡・川跡・溝跡・土壇跡などの遺構が検出され、土師器・須恵器などの遺物が出土し、8世紀末葉頃の集落が存在したことがわかりました。

埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な遺産といえます。私たちは国民的財産の文化財を大切に保護し、さらに郷土の歴史の中で培われた文化を後世に引き継がねばなりません。一方、平和で豊かな暮らしは私たちが等しく切望しているところです。近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

事業区内の遺跡の調査は、埋蔵文化財保護と開発事業実施のため、適切かつ迅速に行われることが今日求められています。こうした要請に適切に対処するとともに埋蔵文化財調査体制の充実を図ることが急務とされ、平成5年4月に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。職員一同、県民と関係各位の要望に応え本県の埋蔵文化財保護のため一層の努力をいたす所存です。今後とも当センター発足の目的が遂行されるようご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

本書が文化財保護活動の啓蒙普及、学術研究、教育活動などにおいて皆様のご理解の一助ともなれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成7年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 木場清耕

例 言

- 1 本書は派出所・駐在所新築事業（南陽警察署高島警察官派出所）に係る「渋作遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 調査は山形県教育委員会の委託により財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記の通りである。

遺跡名	渋作遺跡（DTHSS）	遺跡番号（平成5年度登録）
所在地	山形県東置賜郡高島町大字泉岡字中道	
調査期間	発掘調査 平成6年4月1日～平成7年3月31日	現地調査 平成6年9月19日～平成6年10月14日
調査主体	財団法人山形県埋蔵文化財センター	
発掘調査・資料整理担当者		
	調査研究課長	佐々木洋治
	主任調査研究員	尾形 與典
	調査研究員	佐藤 善春
	調査研究員	高橋 敏
- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県警察本部、南陽警察署、東南置賜教育事務所、高島町教育委員会、社団法人東置賜シルバー人材センター等関係諸機関から協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。
- 5 本書の作成、執筆は尾形與典、高橋 敏が担当した。編集は尾形與典、須賀井新人が担当し、全体については佐々木洋治が監修した。
- 6 委託業務は下記の通り実施した。

遺構の写真実測	株式会社シン技術コンサル
---------	--------------
- 7 出土遺物、調査記録類は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡 例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記の通りである。

SB……掘立柱建物跡	SP……ピット	SD……溝跡	SK……土壇
RP……土器	EB……堀り方	SG……河川跡	
- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。
- 3 報告書執筆の基準は下記の通りである。
 - (1) 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測中の方位は磁北を示している。
 - (2) グリッドの南北軸は、N-8°-Eを測る。
 - (3) 遺構配置図は1/200で採録し、スケールを付した。
 - (4) 遺構実測図は1/40・1/80・1/100縮図で採録し、各挿図毎にスケールを付した。
 - (5) 遺物実測図・拓影図は、土器については1/4・土器以外の遺物については1/2を標準として採録し、各々スケールを付した。
 - (6) 遺物図版については任意の縮尺であるが、同一器種の縮尺はほぼそろえてある。
 - (7) 本文中の遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物図版とも共通のものとした。
 - (8) 土器実測図・拓影図の断面では、網点を入れたものが土師器、黒塗りが須恵器、無表示のものは赤焼土器及び中世以降の土器を表す。
 - (9) 拓影図は、左側から外面・内面・断面を表している。
 - (10) 遺構覆土の色調の記載については、1993年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に拠った。

目 次

I 調査に至る経過	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の方法と経過	2
II 遺跡の立地と環境	3
III 検出された遺構・遺物	5
1 遺跡の層序	5
2 検出された遺構	5
3 出土した遺物	9
IV まとめ	13
報告書抄録	14

表

表1 渋作遺跡 出土遺物観察表	12
-----------------	----

挿 図

第1図 遺跡位置図	1
第2図 調査区概要図	2
第3図 遺構配置図	4
第4図 基本層序図	5
第5図 遺構実測図(1) S B244	6
第6図 遺構実測図(2) S B245・S B246・S K29・S D30・S D31	7
第7図 遺構実測図(3) S G21・S D22・S D25・S D177	8
第8図 遺物実測図(1)	9
第9図 遺物実測図(2)	10
第10図 遺物実測図(3)	11

図 版

巻頭図版1 調査区全景（空中写真）
図版1 遺跡近景・鍬入式・調査風景
図版2 調査風景・現地説明会風景
図版3 基本層序・土層断面
図版4 建物跡検出状況・遺物出土状況
図版5 遺物出土状況
図版6 出土遺物(1)
図版7 出土遺物(2)
図版8 出土遺物(3)

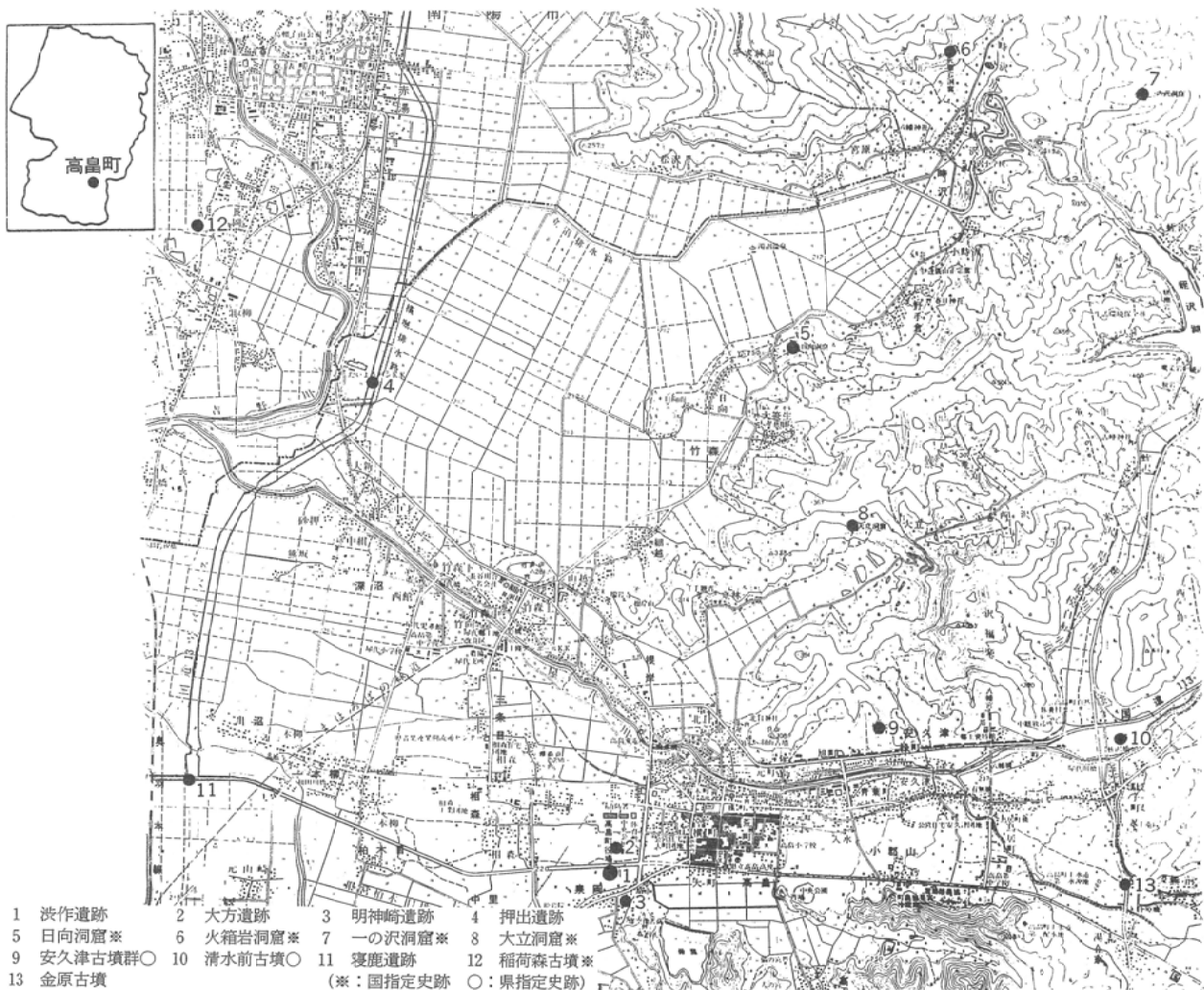
I 調査に至る経過

1 調査に至る経過

今回の渋作遺跡の発掘調査は、派出所・駐在所新築事業（南陽警察署高島警察官派出所）の実施に伴って行われたものである。

平成5年度高島町立病院建設工事に伴い、高島町教育委員会が病院用地内の試掘調査を実施した。その際、用地北側から縄文時代を中心とする遺構・遺物が、南側からは奈良・平安時代を中心とする遺構・遺物が出土し、北側の遺跡が大方（おおかた）遺跡、南側の遺跡が渋作（しぶさく）遺跡として新たに登録されたものである。

平成6年6月、高島町教育委員会によって両遺跡の発掘調査が実施され、渋作遺跡の範囲は県道南側の派出所用地まで及ぶことが予想されたことをうけて、平成6年8月に県教育委員会文化財課によって詳細分布調査が行われた。調査によって、奈良・平安時代の土師器・須恵器などの遺物、溝跡・土壇・柱穴などの遺構が検出され、高島警察官派出所建設用地が渋作遺跡の範囲に含まれることが確認された。詳細分布調査の内容をもとに、関係機関による協議が行われた結果、遺跡推定範囲約15,000㎡のうち高島警察官派出所用地1,200㎡について、財団法人山形県埋蔵文化財センターが県から委託を受け、発掘調査を行い、記録保存をすることになったものである。



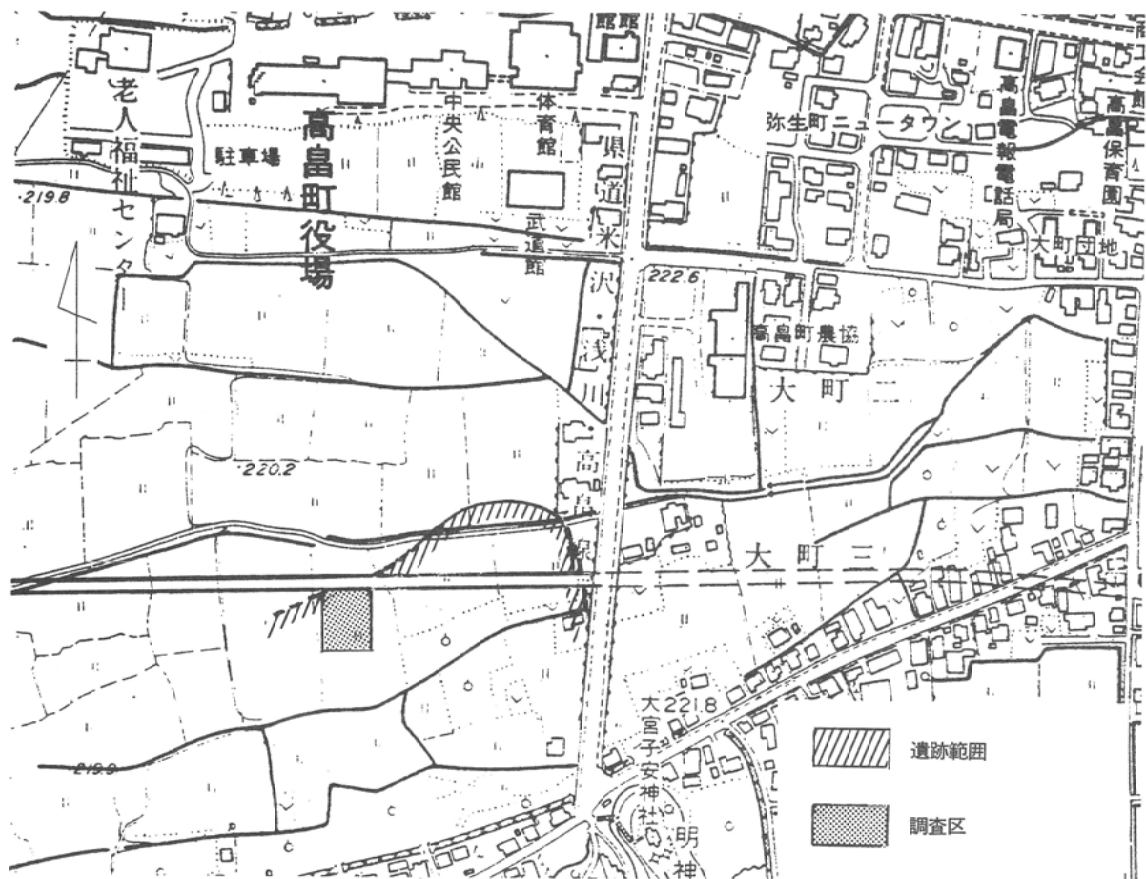
第1図 遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)

2 調査の方法と経過

調査は、平成6年9月19日に始まり10月19日までの実質15日間行った。

浚作遺跡推定面積約15,000㎡のうち高島警察官派出所新築用地部分に係る1,200㎡を調査対象としている。

9月19日に発掘器材の搬入と現場事務所の設営を行い、調査区内の草刈りを実施した。午後から関係者により安全を祈願する鍬入式を行う。その後、東西30m・南北40mの調査区の設定を行った。20日から、試掘による土層観察をもとに調査区内の表土をバックホーを用いて除去し、2m四方のグリッド(方眼)を設定した。併せて面整理も開始した。26日は前夜からの降雨による大量の雨水の排水をポンプ及び人力で行う。以後、連日の降雨により調査が大幅に遅延した。10月3～5日、小雨の降るなか排水作業と平行して面整理・遺構確認・マーキング・平面図の作成等を行った。6日、ローリングタワーを調査区南側の水田内に立て、遺構精査に関するレクチャーの後、柱穴を中心に精査に入った。同時に、写真撮影を行った。7日、土壌・溝跡などの遺構精査と平面図作成・写真撮影をした。11日、遺構登録と登録遺物の取り上げを行う。12日、関係者を含め40名ほどの参加を得て現地調査説明会を開催した。現地調査説明会終了後、遺構精査作業を継続した。13日、遺構精査及びラジコンヘリによる調査区の写真実測を行った。終了後、遺構断面図作成と土層注記・写真撮影などの記録作業を行った。14日、器材と現場事務所の撤収を行い、現地調査を終了した。



第2図 調査区概要図 (S = 1 : 5,000)

II 遺跡の立地と環境

高島町は、山形県の南部、米沢盆地の東端に位置している。東には脊梁山脈である奥羽山脈、北と南は丘陵をなして上山・南陽両市、米沢市に境を接し、西は北に流れる最上川に限られ肥沃な穀倉地帯を形成している。

高島町役場の南約300m、高島町大字泉岡字中道に所在する渋作遺跡は、屋代川と下有無川によって形成されたゆるやかな扇状地の南扇側部に位置し、南東には「大宮子安神社」のある明神山、南には「虚空蔵尊」のある標高290mの虚空蔵山があり、北側と西側が開けた平地になっている。長い間に洪水などの河川活動により、河道が変化したことが原因となって形成された自然堤防と思われる微高地が東西に幾筋が走り、そのうえに道路や集落が形成されている。渋作遺跡は、それら自然堤防の間、いわゆる河間低地に立地している。それを裏付けるように、遺構確認面の下をおよそ20cm掘り下げたところから泥炭層が検出され、湧水が見られる。現在の地目は、名産のラ・フランスやリングを中心に果樹園、水田等となっている。遺跡の標高は約221mを測る。

高島町には現在までに国指定史跡4カ所を含め120カ所以上の遺跡が確認されている。その中で、渋作遺跡の北東約3kmには、昭和30年から40年代にかけ発掘調査が実施され、縄文文化のはじまりを考えるうえで貴重な資料が発見された日向(ひなた)、一の沢、火箱岩(ひばこいわ)、大立(おおだち)の各洞窟遺跡が点在し、いずれも国指定史跡になっている。

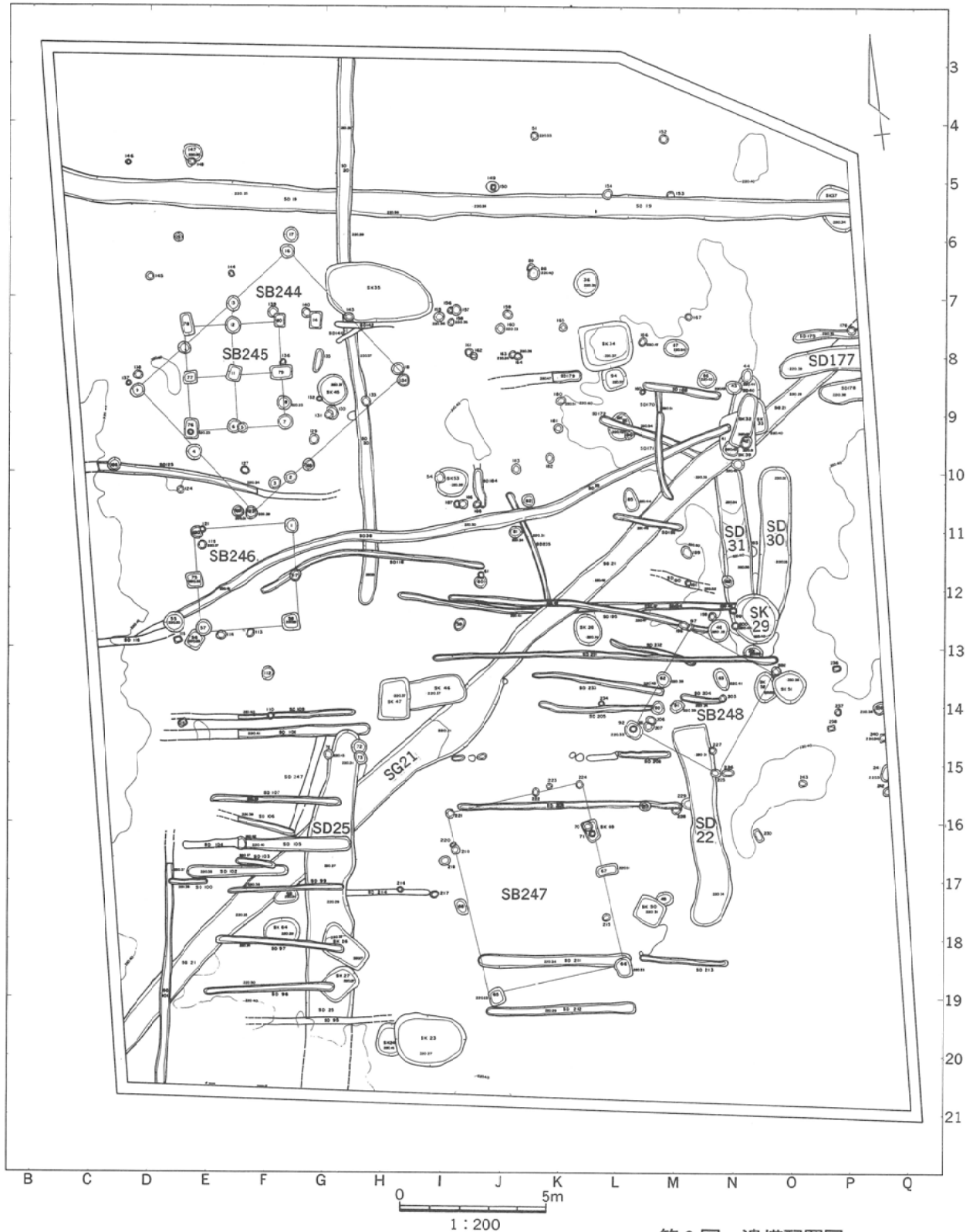
また、高島町は古墳時代末から奈良時代における群集墳が点在することでも知られている。渋作遺跡東方約3kmの山際には、昭和59年に安久津古墳群として県史跡に一括指定された、35基の古墳(北目支群、羽山古墳、加茂山洞窟古墳、源福寿支群、味噌根支群、安久津支群、鳥居町支群)や、昭和30年に県指定史跡となった清水前古墳群をはじめとする多くの古墳が所在している。

さらに、渋作遺跡北西約3kmの南陽市と接する地域で、吉野川や屋代川で限られた大谷地と通称される低湿地の地中からは、これまでの縄文時代の生活のイメージを一変させるような低地性集落と豊富な出土品で、全国的に話題となった押出(おんだし)遺跡がある。昭和60年から3年間発掘調査が実施され、地下2mの遺構検出面から39棟の打ち込み柱や転ばし根木の床をもつ平地式住居跡が検出されている。出土した豊富な遺物のなかでは、石鏃やつまみのある尖頭器などの石器類、赤漆・黒漆により文様が描かれた彩文土器や大木5式の土器、厚い泥炭層によりパッキングされた保存状態の良い数多くの木製品、栄養学的にも完璧といわれるクッキー状炭化物(縄文クッキー)等がよく知られているところである。

平成元年6月に、渋作遺跡南東約200mの明神山の麓で県教育委員会によって明神崎遺跡の発掘調査が実施され、古墳時代から奈良・平安時代を中心とする遺構・遺物が検出されている。

このように、高島町には「遺跡の宝庫」といわれるほどの数多くの遺跡があり、人々の

暮らしや風土に融合して“まほろばの里”として知られている。平成4年に、高島町大字安久津に山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館が建設され、置賜地方を中心とする考古資料を展示して県民に親しまれている。

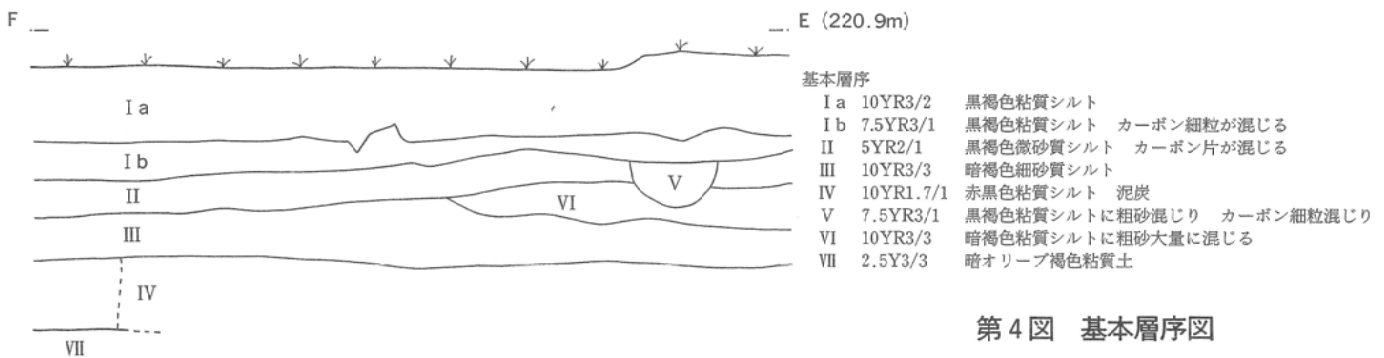


第3図 遺構配置図

III 検出された遺構

1 遺跡の層序

調査区の地目は、前述したように水田となっているが隣接して果樹園が点在しており、遺構確認面までの基本層序は下に掲げた第4図のようになっている。I a層は恒常的に攪乱を受けてきたと思われる耕作土である。I b層は耕作土下の床土と考えられ、近世の陶器片やごく少量の須恵器片などが見受けられた。II層は近年の攪乱は受けていないものと理解される。III層は、奈良・平安時代の遺構の地山であり、遺物の包含層となっている。IV層は、泥炭様の土で遺構面の地下全面に見ることが出来、この層まで掘り進むと湧水が見られる。当初、大谷地との関連を考えたが、直接の関連はないようである、V層は、近年の耕作にかかわる溝跡・畝跡と考えられる。VI層は、小礫・粗砂を大量に含み、粘質性が強い。S G21川跡に向かって厚く堆積している。おそらくS G21の河川活動によるものと考えられ、遺構の南西部分に同様の堆積が見られる。



第4図 基本層序図

2 検出された遺構

今回、地表面から40cmほど掘り下げた所で遺構を確認した。その結果、川跡や建物跡、溝跡、土壌などで構成された遺跡であることが明らかになった。次に主な遺構について概説する。

S G21川跡 (第7図) 調査区の北東から南西に斜めに延びている、幅が70cmほどの狭くて浅い川跡が検出された。両端の標高差から、北東から南西に向かって流下していたものと考えられる。平成6年6月の高島町教委による調査時に検出された川跡と結びつくと考えられるが、詳細については今後の検討が必要である。

S G21川跡の右岸(調査区北西部)に建物の柱穴と考えられるピットが多く検出されている。それらのピットの組み合わせから、現在のところ5棟の建物跡を確認している。

S B244掘立柱建物跡 (第5図) 調査区北西F-8グリットに中心を置く。梁間2間、桁行3間(約5.5m×約7m)の建物跡で、住居跡と考えられる。主軸方位はN-56°-Eである。

S B245掘立柱建物跡 (第6図) E-8グリットに中心を置く。梁間2間、桁行2間(約3.5m×約3.5m)の総柱建物跡で、倉庫跡と考えられる。主軸方位はN-8°-Eである。

S B246掘立柱建物跡 (第6図) E-8グリットに中心を置く。S B245と同じく梁間

2間、桁行2間(約3.5m×約3.5m)の総柱建物跡で、倉庫跡ではないかと考えられる。主軸方位はN-5°-Eである。SB244とSB245は、重複する柱穴がなく先後関係は不明であるが、SB245とSB246の2棟の総柱建物跡は、主軸方位や軒の向きが同じで、掘り方の規模などの類似性などから同時期と考えられる。

SB247掘立柱建物跡(第3図) J-17グリットに中心を置く。梁間3間、桁行4間(約4.8m×約6.5m)の建物跡である。主軸方位はN-8°-Wである。

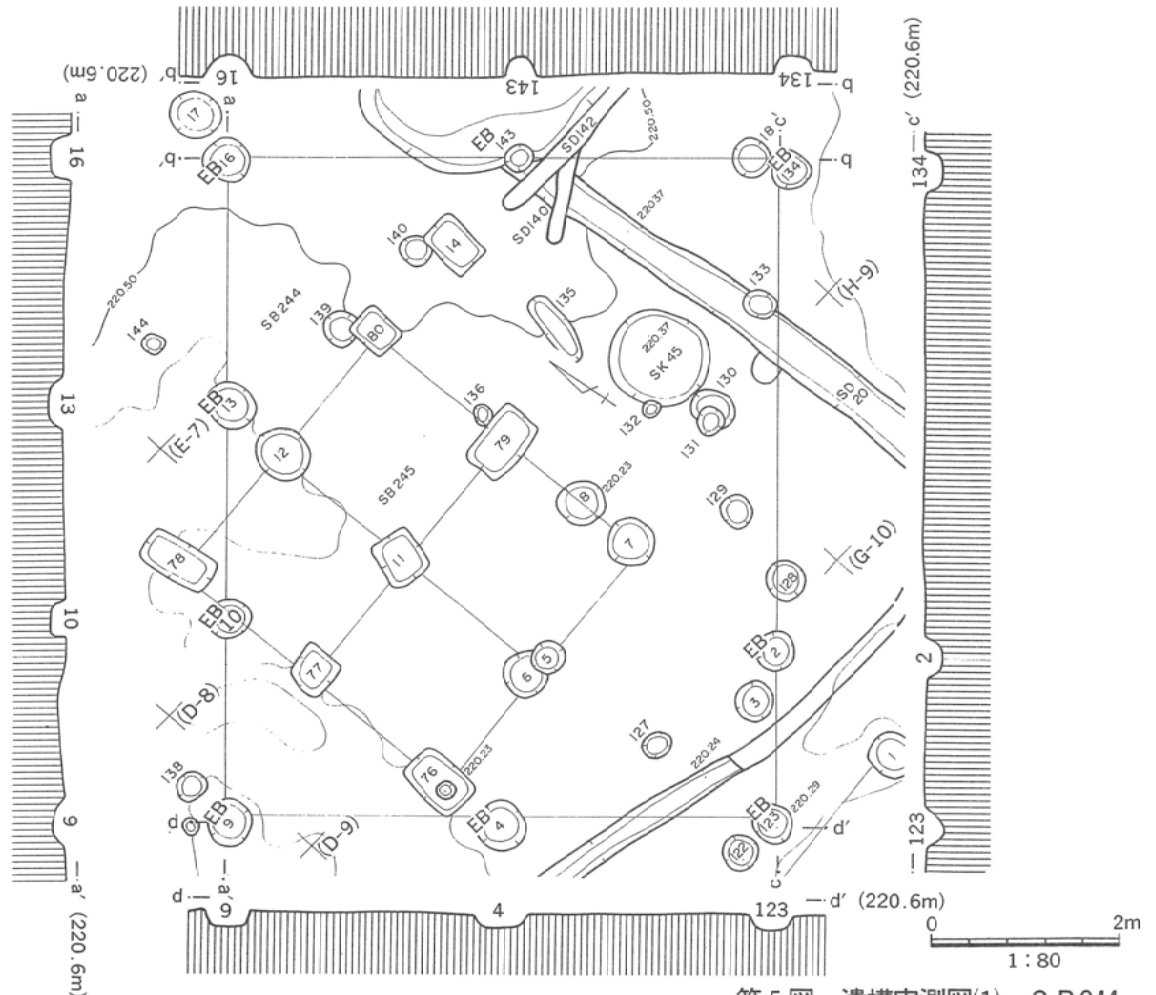
SB248掘立柱建物跡(第3図) M-14グリットに中心を置く。梁間2間、桁行2間(約3.3m×約4m)の建物跡である。主軸方位はN-36°-Eである。

SD22・SD25溝跡(第7図)・SD30・SD31溝跡(第6図) SG21川跡の左岸方向に、幅1mほどの南北に延びる溝跡を4本検出した。長さはそれぞれ4m~7m以上あり、どの溝跡からも土器がまとも出土している。

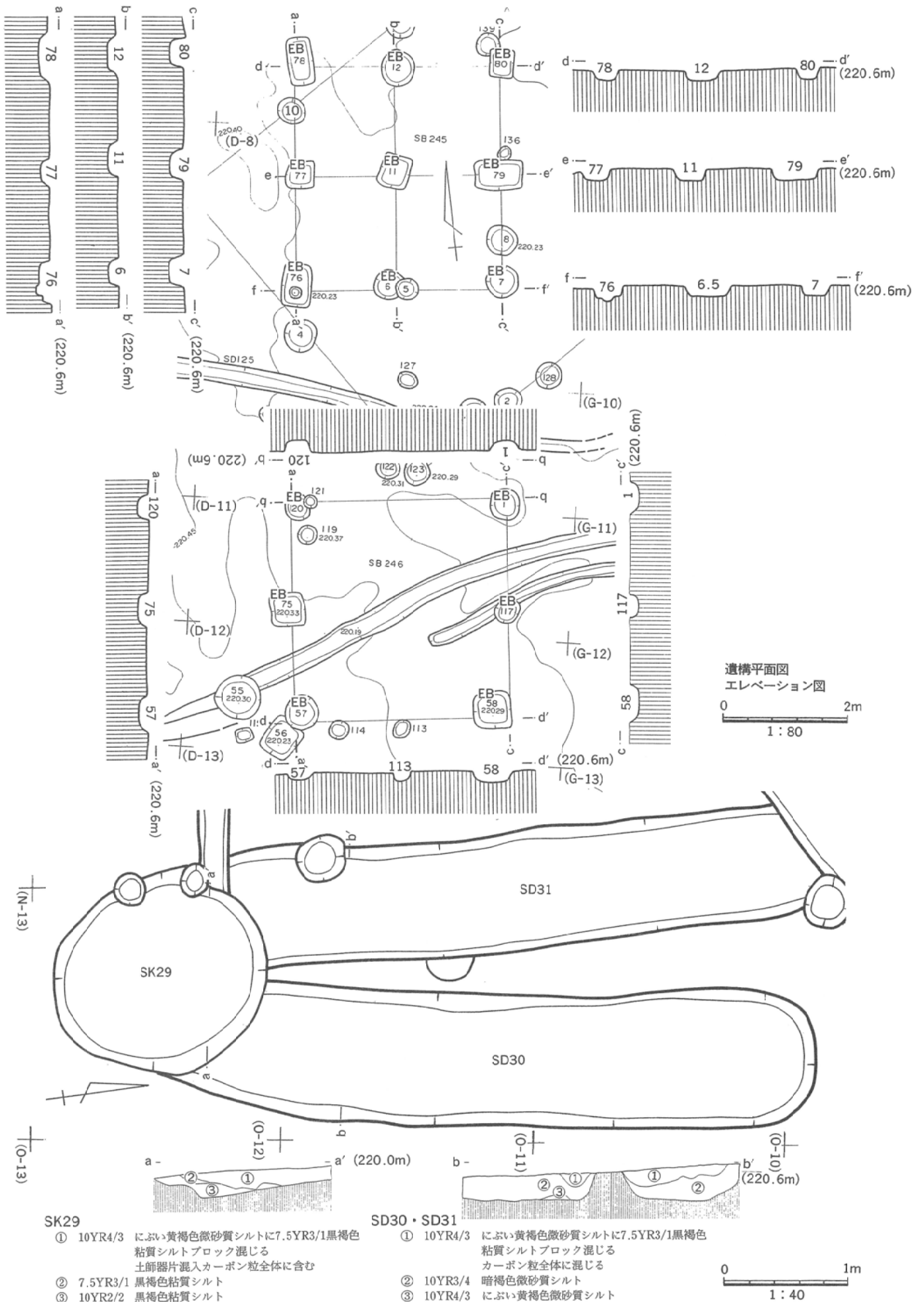
SD177溝跡(第7図) SG21川跡を切って、調査区外の東方向に延びる幅60cmほどの溝が検出され、土師器を中心に出土している。

SK29土壇(第6図) SD30・SD31溝跡を切っている。ここからは、へら起こしの須恵器などが出土している。

畝跡 川跡や溝跡を切り、平行して東西に延びる幅20~25cmの細長い溝跡を数条検出した。調査区の中でもっとも新しい遺構と考えられ、近世以降の畑作による畝跡ではないかと考えられる。

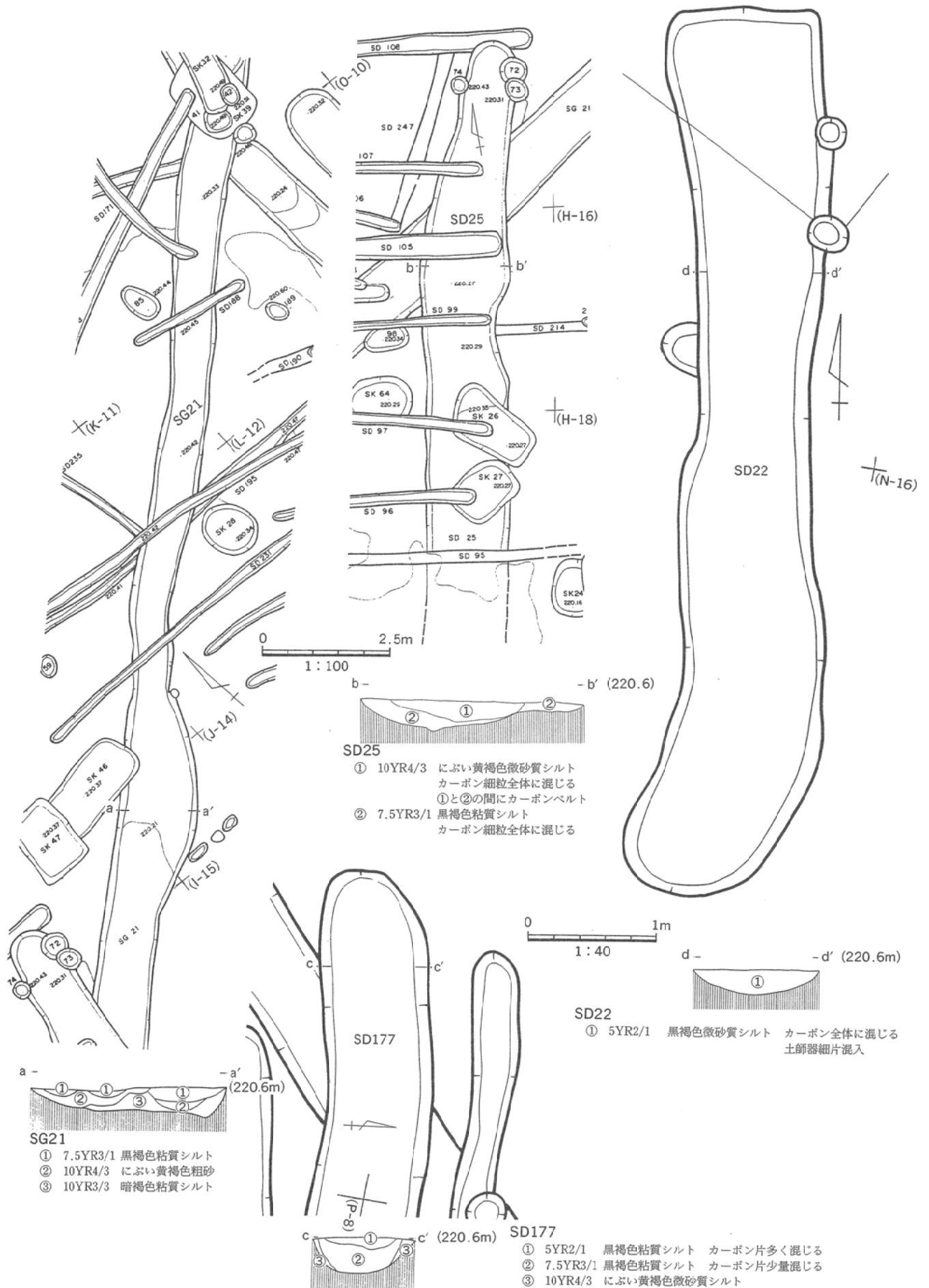


第5図 遺構実測図(1) SB244



第6図 遺構実測図(2) SB 245・SB 246・SK 29・SD 30・SD 31

III 検出された遺構



第7図 遺構実測図(3) SG21・SD25・SD22・SD177

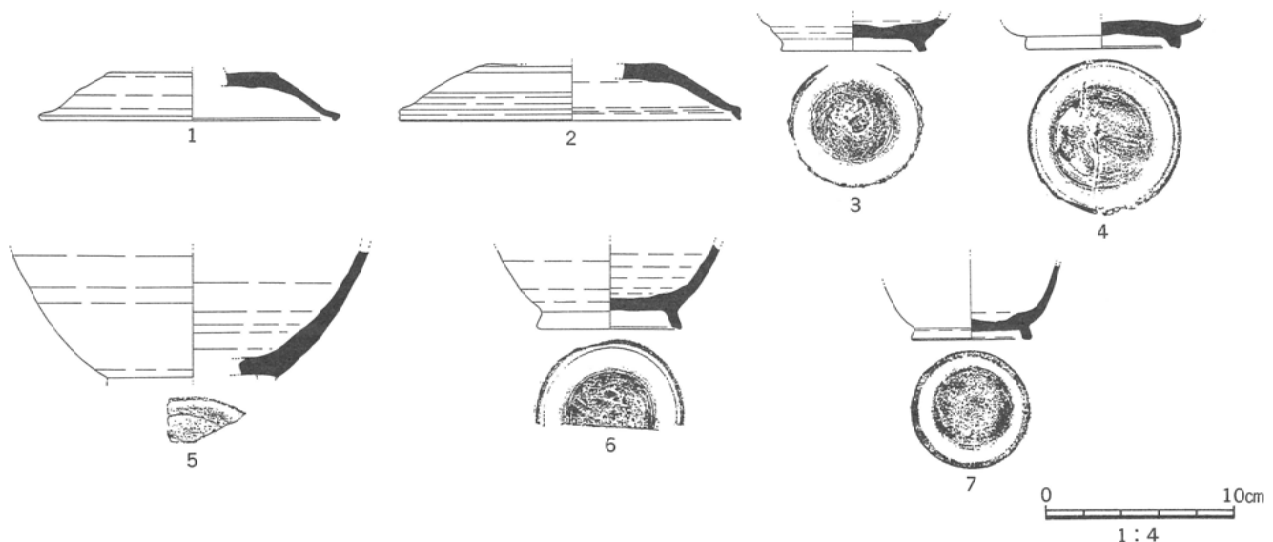
3 出土した遺物

浚作遺跡から出土した遺物は、土師器、須恵器、陶器、石製品がある。

土師器は、甕のみの出土であるが数量的には須恵器を凌駕している。しかしながら、概して保存状態が悪く、口縁部から底部まで復元できたものはなかった。その中で体部の一部にハケメ調整の痕跡が窺えるもの(33・32・35・36)や、底部に葉脈の痕跡を残すものが2点(33・34)見られる。土師器の坏類(内黒土器など)の出土は皆無であった。

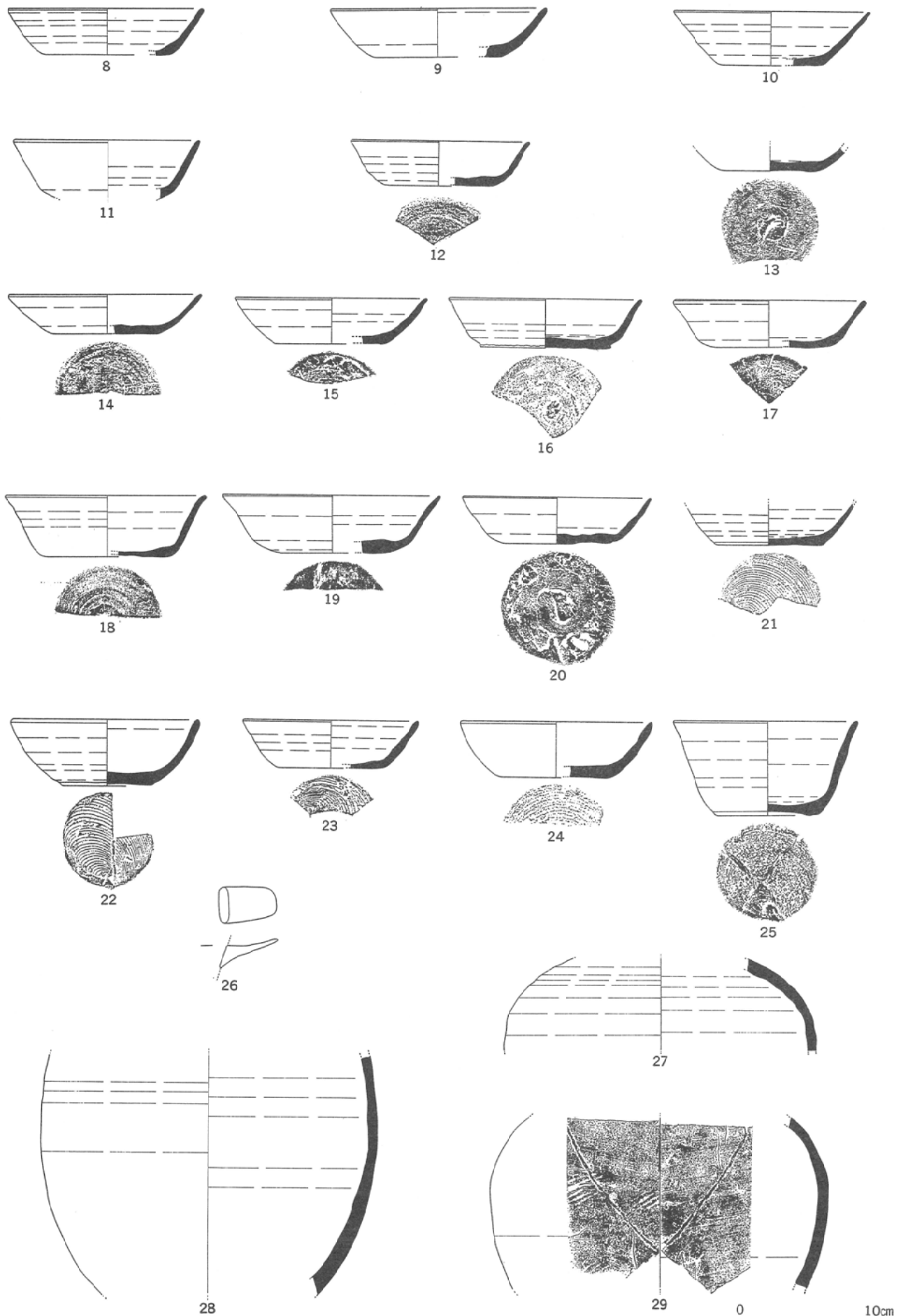
須恵器は、調査区の全域から出土している。蓋は2点(1・2)出土しており、肩が比較的張る形態をしている。坏は、一般的に口径に比して底径が大きい。また、底部切り離し技法は、ヘラ起こしのものと回転糸切りの二者が認められるが、いずれも、体部下端の再調整は認められない。その中で、ヘラ起こしで、底部から斜めに立ち上がるのを特徴とするもの(8・9・10・11・14・20)、底部の切り離し技法やフォルムが前のグループと共通しながらも、底辺がわずかに丸みを帯び口縁部が外反するもの(12・15・18)、同じくヘラ起こしで体部がゆるやかに外反し、体部下半に丸みを持つもの(16・17・19)、回転糸切りで、やや小型のもの(23・24)、底部がやや小さく、体部がゆるやかな曲線を持ちながら立ち上がるもの(22)に区分することが可能と考える。碗(25)は、回転糸切りで底部から体部が立ち上がる角度が大きく、口縁部がわずかに外反する。これは川西町道伝遺跡(藤田1984)SD1V下層出土のものと類似している。また、耳杯の取手と考えられるものが1点(26)出土している。さらに、高台が付くものが5点ある。須恵器の壺・甕類はいずれも破片による出土である。蓋は内外面ともロクロ調整が見られる(27・28)。甕は外部が平行のタタキ目で内部がロクロ調整によるもの(29)、外部が平行のタタキ目で内部が青海波文のもの(30)が見られる。これらの須恵器は米沢市大浦B遺跡出土須恵器編年表(手塚他1993)・米沢市笹原遺跡出土須恵器編年表(手塚他1981)によれば、それぞれ第III期としているものに類似すると考えられ、同編年に従えばいずれも8世紀末葉と考えられる。

その他は、砥石が2点(44・45)と用途不明(砥石?)の石製品1点(43)が出土している。砥石は2点とも粘板岩系の石材を使用し、44は3面、45は4面の使用痕が見られる。

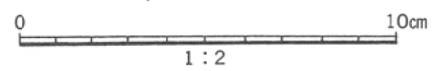
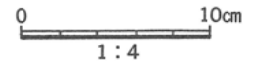
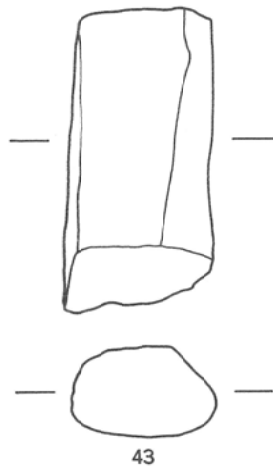
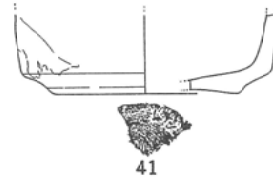
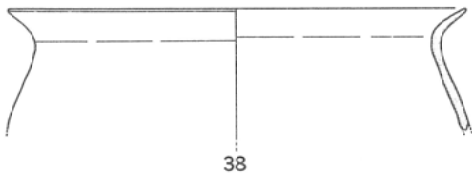
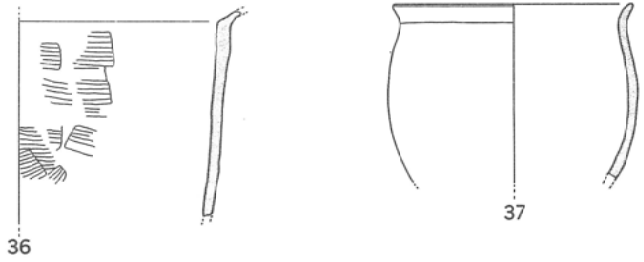
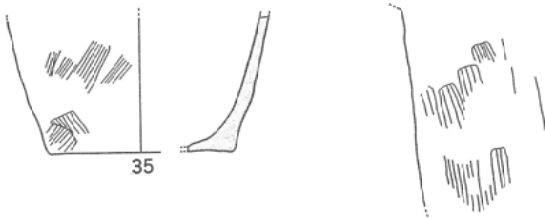
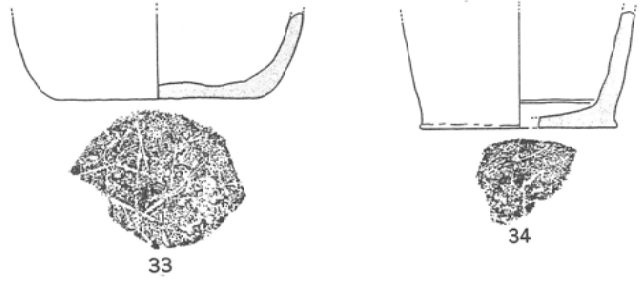
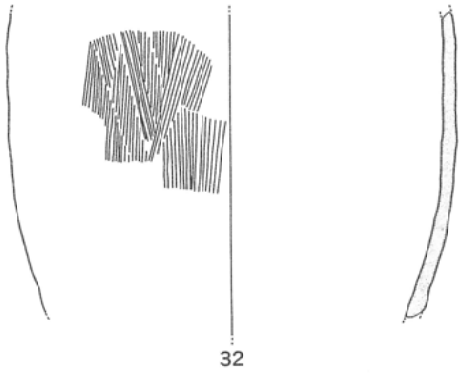
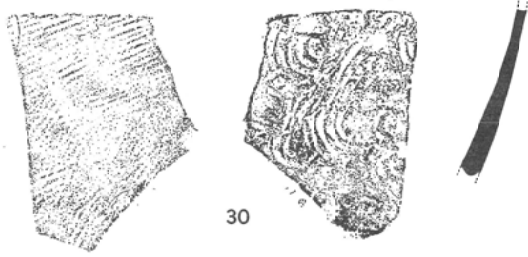


第8図 遺物実測図(1)

III 検出された遺構



第9図 遺物実測図(2)



第10図 遺物実測図(3)

III 検出された遺構

出土遺物観察表

挿図	番号	種別	器種	口径	底径	器高	器厚	底部切離	外面	内面	出土地点・層位	備考	
第一 図	1	須恵器	蓋	160	84	25	4		ロクロ	ロクロ	S K24・XO		
	2	須恵器	蓋	180			5.5		ロクロ	ロクロ	S D22		
	3	須恵器	碗		76				ロクロ	ロクロ	S D25	貼高台	
	4	須恵器	坏		82				ロクロ	ロクロ	H 4	貼高台	
	5	須恵器	碗		90		7		ロクロ	ロクロ	S K26	貼高台か	
	6	須恵器	碗		72		5	回転糸切	ロクロ	ロクロ	S トレンチ I~II	貼高台	
	7	須恵器	碗		60		3	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	S K32	高台付	
第二 図	8	須恵器	坏	146	94	35	4	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	S D30		
	9	須恵器	坏	164	96	37	5				S D35		
	10	須恵器	坏	148	76	41	3	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	N 9		
	11	須恵器	坏	138			5		ロクロ	ロクロ	XO	貼高台	
	12	須恵器	坏	136	87		4	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	S D31		
	13	須恵器	坏		72		5	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	S D25		
	14	須恵器	坏	144	82	30	3.5	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	G15・XO		
	15	須恵器	坏	144	86	34	5.5	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	S D22		
	16	須恵器	坏	142	96	37	5	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	S D25		
	17	須恵器	坏	143	80	35.5	4	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	S P72		
	18	須恵器	坏	150	96	47	5	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	S K29		
	19	須恵器	坏	163	80	44	4		ロクロ	ロクロ	XO		
	20	須恵器	坏	142	82	35	4.5	ヘラ起こし	ロクロ	ロクロ	S K29		
	21	須恵器	坏		80		4	回転糸切	ロクロ	ロクロ	S D31		
22	須恵器	坏	144	68	50	5	回転糸切	ロクロ	ロクロ	S D25・G17			
23	須恵器	坏	132	80	36	6	回転糸切	ロクロ	ロクロ	S D25			
24	須恵器	坏	144	80	42	5	回転糸切	ロクロ	ロクロ	S D177			
25	須恵器	碗	134	80	71	6	回転糸切	ロクロ	ロクロ	S D22			
26	須恵器	取手	(長)44 (幅)26 (厚)9								S K32		
27	須恵器	壺				8		ロクロ	ロクロ	S K29			
28	須恵器	壺				8		ロクロ	ロクロ	S P192・S D31			
29	須恵器	甕				8		ロクロ	ロクロ	S D22・S P52			
第三 図	30	須恵器	甕				7		タタキ	アテ痕	S D177		
	31	土師器	甕	247			5		刷毛		S D30・S D31・S P192		
	32	土師器	甕				7		刷毛		S D22		
	33	土師器	甕		104		9				S D31	底部葉脈痕	
	34	土師器	甕		98		10				S トレンチ I~II	底部葉脈痕	
	35	土師器	甕		99		6			刷毛	S K51		
	36	土師器	甕	20.8			5.5		刷毛	刷毛	S D177		
	37	土師器	甕	124			5				K12		
	38	土師器	甕				4				S D22		
	39	土師器	甕		97						S K26		
	40	土師器	甕		104					刷毛	S D177		
	41	陶器	鉢		99		8	回転糸切			XO	陶器	
	42	陶器	甕				6				XO	陶器	
	43	石製品	不明	(長)79 (幅)38 (厚)24								K12	砥石?
	44	石製品	砥石	33	41	33						XO	
	45	石製品	砥石	41	25	11						XO	

IV まとめ

派出所・駐在所新築事業（南陽警察署高島警察官派出所）に伴う、渋作遺跡の発掘調査は高島町大字泉岡字中道に所在する平方四辺形状の建設予定地1,200㎡を調査した。その結果、8世紀末葉頃と考えられる遺構・遺物と、近世から現代に至る耕作に伴うと考えられる溝跡などを検出した。

建物跡は住居や倉庫、付属屋と推定されるものが5棟確認されている。S B 245とS B 246の倉庫と考えられる2棟の建物跡は前述したように同時期と思われる。S D 20、S D 108により区画されることも考えられるが、詳細は今後の検討課題となろう。S B 244との先後関係は不明である。また、他のS B 247とS B 248を含めた建物跡の先後関係や構成などは不明であり、今後検討が必要である。

調査区の北東から南西に流下するS G 21は、高島町教委が町立病院建設予定地の調査の際、検出したものと結びつくと考えられる。また、調査区の南西側の3分の1を覆う凝灰岩質の小砂礫の堆積は、この集落の廃絶・移転と何らかの関連を持つものと推測される。いくつかの土壌からは、土師器の甕と須恵器の坏類及び壺・甕などが出土している。

出土した遺物はポリコンテナ7箱ほどである。土師器は数量的には多いが磨滅が激しく、口縁部から底部まで復元できたものは皆無であった。器種はすべて甕であり、土師器の坏・高坏・内黒処理の坏類の出土は皆無である。須恵器は、坏類・壺・甕の出土であった。坏類の底部切り離し技法が回転ヘラ起こし無調整のものが多く、回転糸切りのは少量であった。その中で、碗(25)は、川西町埋蔵文化財調査報告書第8集「道伝遺跡」(藤田1984)のS D 1 V下層出土のR P 161と類似している。他の坏も米沢市大浦B遺跡出土須恵器編年表(手塚1993)、米沢市笹原遺跡出土須恵器編年表(手塚1981)の第III期と並行するものと思われる。したがって、渋作遺跡で出土した須恵器は8世紀末葉のものとする事が出来る。

検出された遺構や遺物の分布から、渋作遺跡の中心は調査区より南西寄りにあるのではないかと考えられる。

参考文献

- 手塚 孝他、1993年、『大浦B遺跡』、『米沢市埋蔵文化財調査報告書第36号』
 藤田有宣、1984年、『道伝遺跡』、『川西町埋蔵文化財調査報告書第8集』
 手塚 孝他、1981年、『笹原遺跡』、『米沢市埋蔵文化財調査報告書第7集』
 渋谷孝雄他、1990年、『明神崎遺跡発掘調査報告書』、『山形県埋蔵文化財調査報告書第157集』
 佐藤正俊他、1987年、『寝鹿・契約壇遺跡発掘調査報告書』、『山形県埋蔵文化財調査報告書第112集』
 伊藤邦弘他、1994年、『南原遺跡・堂ノ下遺跡・飯塚館跡発掘調査報告書』、『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第2集』
 阿部明彦、1994年、『木原遺跡第2次発掘調査報告書』、『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第8集』
 斎藤俊一他、1994年、『西谷地遺跡発掘調査報告書』、『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第12集』

報告書抄録

ふりがな	しぶさくいせきはつかつちょうさほうこくしょ							
書名	渋作遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第29集							
編著者名	尾形 與典・高橋 敏							
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-31 山形県上市市弁天二丁目15番1号 TEL0236-72-5301							
発行年月日	西暦1995年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しぶさく 渋作	やまがたけんひがし 山形県東 おきたまぐんたかはた 置賜郡高島 まちおおおだいら 町大字泉 おかあきなみち 岡字中道	6381	平成5年 度登録	37度 59分 49秒	140度 11分 37秒	19940919～ 19941014	1,200	派出所・駐 在所新築事 業 (南陽警察 署高島警察 官派出所)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
渋作	集落跡	平安時代	掘立柱建物跡 溝跡 土壌 河川跡	土師器 甕 須恵器 坏・碗 高台坏 高台碗 壺・甕 蓋		掘立柱建物跡5棟・ 自然河川と思われる溝 跡1本、遺物を含む幅 が広く短い溝跡を検 出。 須恵器はヘラ起こし が中心。		

版 圖



遺跡近景（南東から）



鍬入式風景（北西から）



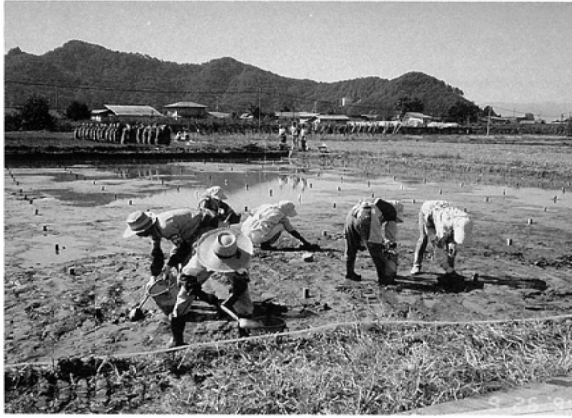
重機粗掘・排水風景（南から）



グリッド杭打風景（北西から）



遺構確認風景（南西から）



排水作業風景（北東から）



面整理風景（南東から）



遺構精査風景（北西から）



遺構精査風景（南東から）



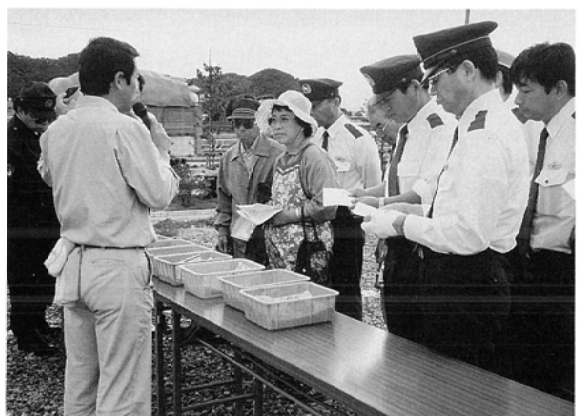
記録風景（東から）



空撮風景（北西から）



現地説明会風景（南東から）



現地説明会風景



基本層序E-Fライン (北から)



遺構確認状況 (南から)



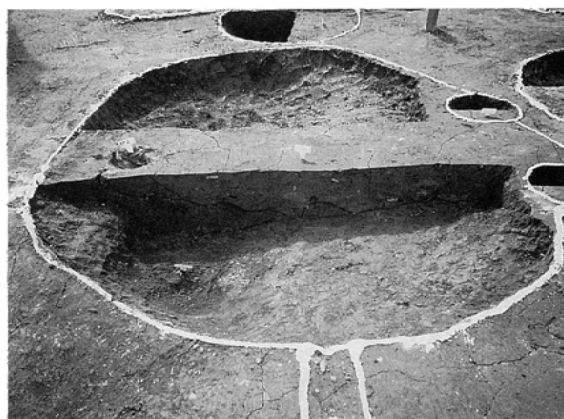
S G21土層断面 (南西から)



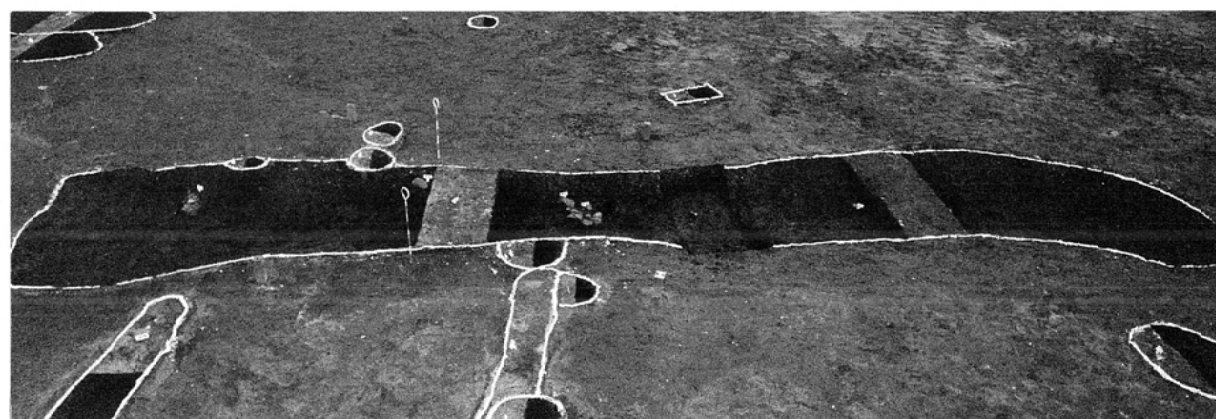
S D177土層断面 (東から)



S D30・S D31土層断面 (北から)



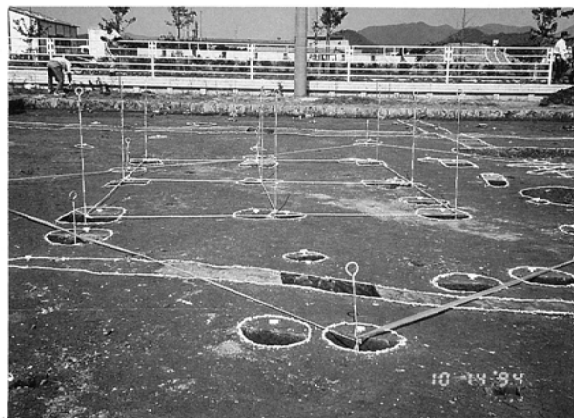
S K29土層断面 (北から)



S D22全景 (西から)



S D 25土層断面 (南から)



S B 245掘立柱建物跡 (南から)



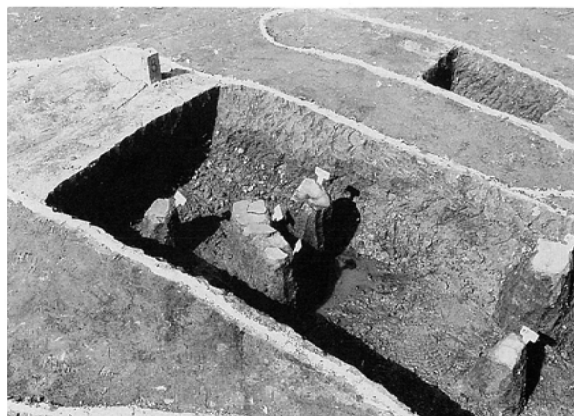
S B 244 (2 × 3) 掘立柱建物跡 (北東から)



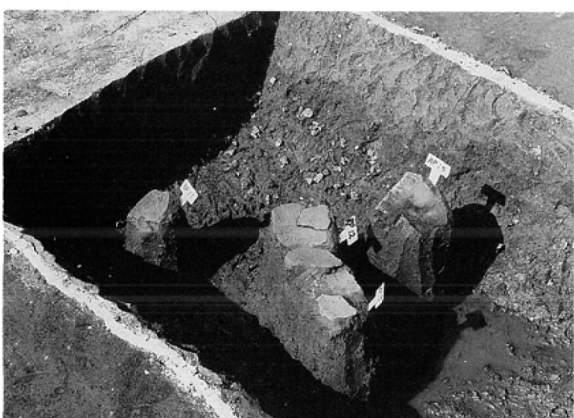
S B 245柱穴 E B 76 (南から)



S K 29遺物出土状況 (北西から)



S D 177遺物出土状況 (南東から)



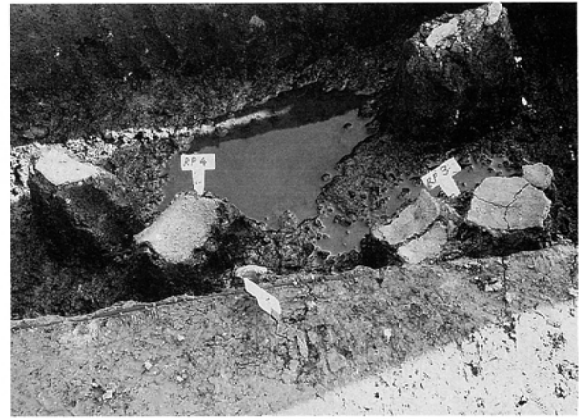
P R 11、12、13、14出土状況 S D 177 (南東から)



R P 15、16、17、18出土状況 S D 177 (南西から)



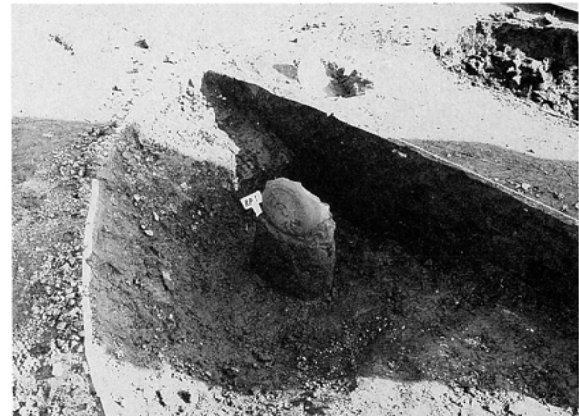
S D22遺物出土状況 (西から)



R P 3、4土師器出土状況 S D22 (南から)



R P10出土状況 S K32 (北東から)



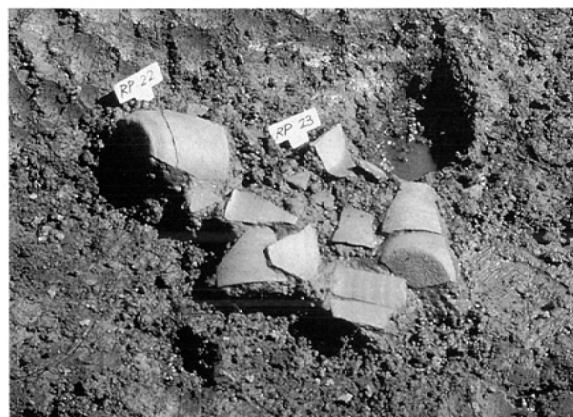
R P 1 出土状況 S K29 (北西から)



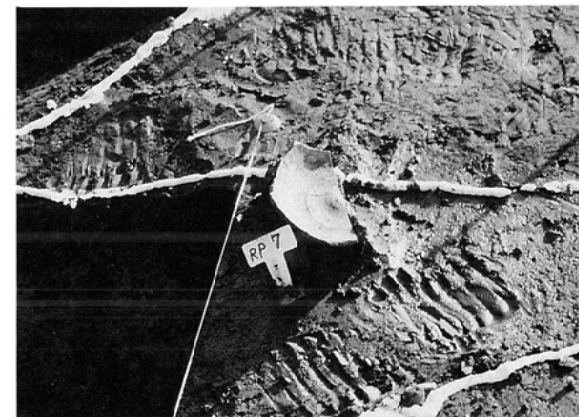
R P 26、27出土状況 S D25 (西から)



R P 28、29出土状況 S D25 (北から)

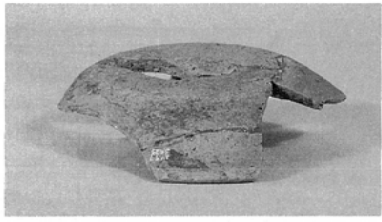


R P 22、23出土状況 S D22 (西から)

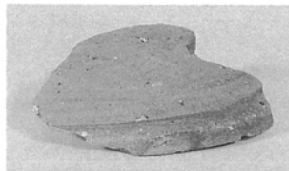


R P 7 出土状況 S K26 (北から)

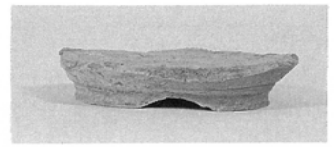
图版 6



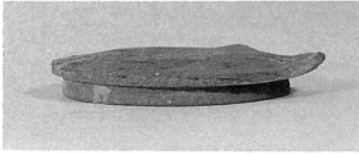
1



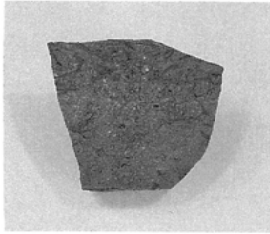
2



3



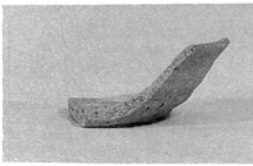
4



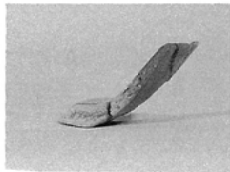
5



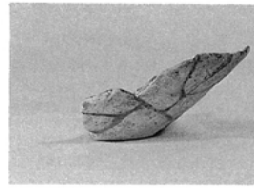
7



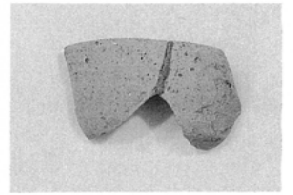
12



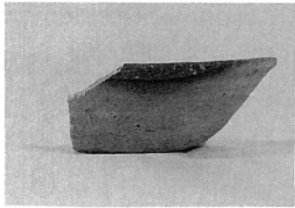
9



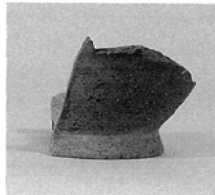
10



11



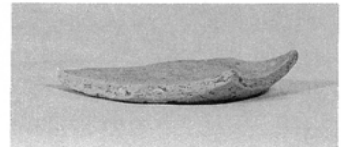
8



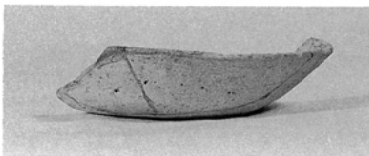
6



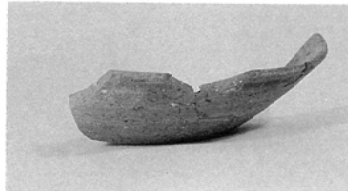
17



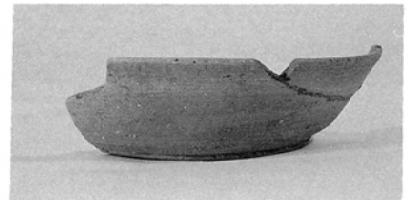
13



14



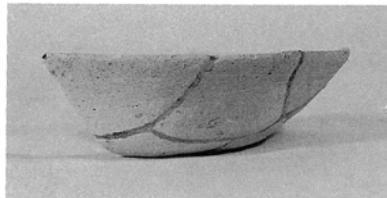
15



16



18



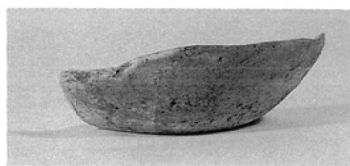
19



21



20



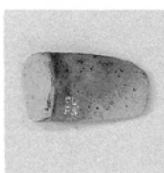
24



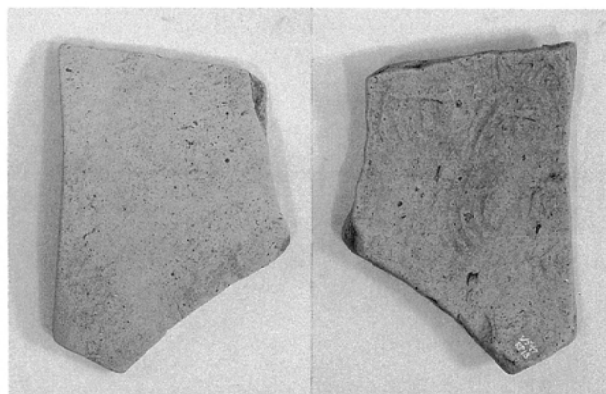
23



25



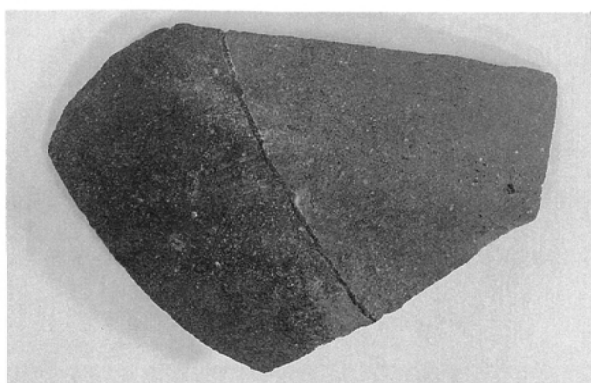
26



30



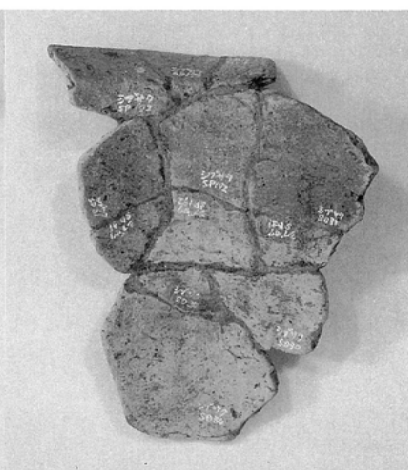
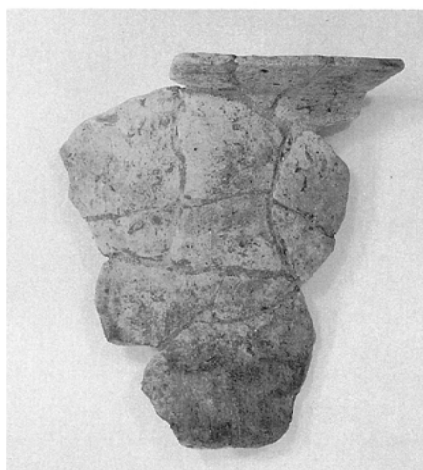
22



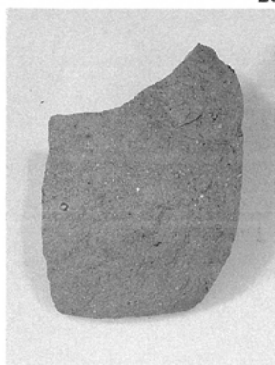
29



28



31



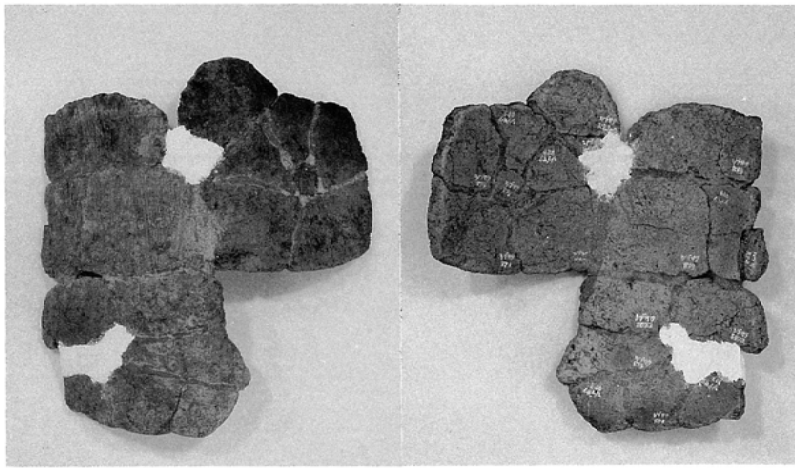
27



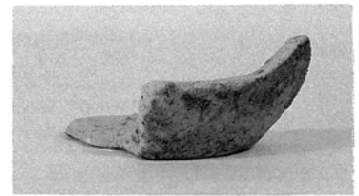
39



40



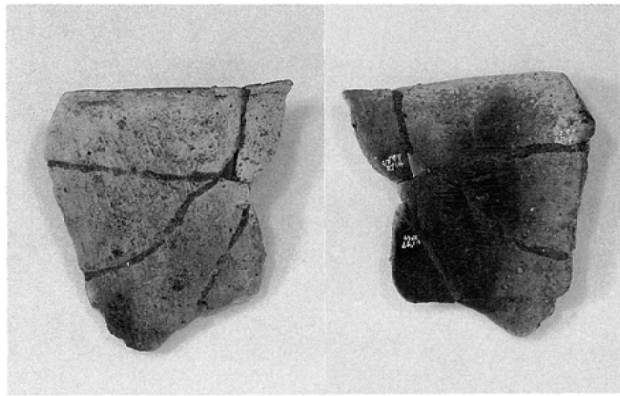
32



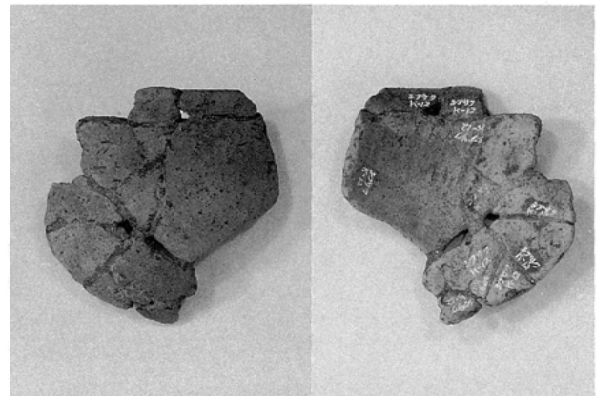
33



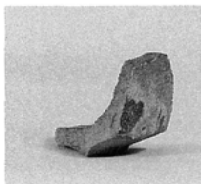
34



36



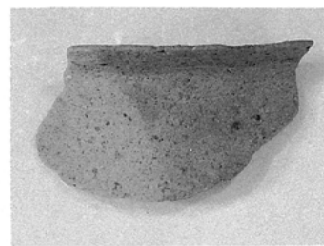
37



41



42



38



35



43

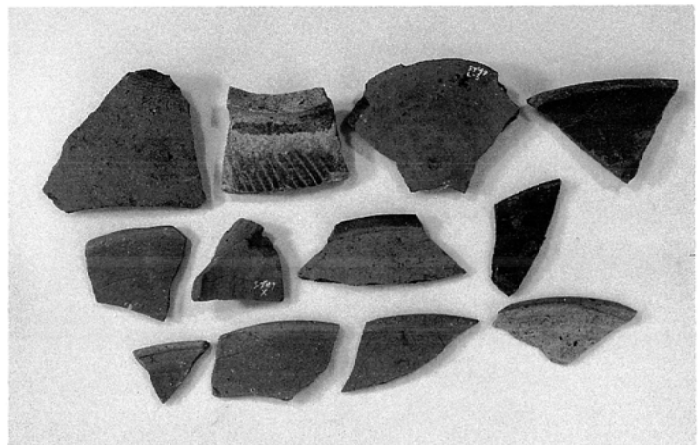


44

45



粗掘出土陶器片 46



面整理出土遺物 47

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第29集

渋作遺跡発掘調査報告書

1995年3月31日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号
電話 0236-72-5301

印刷 株式会社 大風印刷
